



瀬戸内海クルーズ推進会議（第7回全体会議）

今年度の活動報告及び今後の予定

令和5年1月30日

瀬戸内海クルーズ推進会議 事務局



1. 瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取り組み
2. 今年度の活動報告
3. 今後の進め方（案）について



1. 瀬戸内海クルーズ推進会議のこれまでの取り組み



瀬戸内海クルーズ推進会議の目的と体制



設立の目的（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第2条）

○我が国におけるクルーズが進展しつつある中、瀬戸内海や瀬戸内海を囲む諸港、諸地域において、瀬戸内海独自の魅力、特色を活かした独自のクルーズ振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海（※）となることを目指し、また、その取組みを通じて当該海域・地域の振興を図るとともに世界に誇れる主要な観光圏としての地位向上を目的に設立。

※「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたい日本へー（平成28年3月20日）」での施策集において“日本の各地をカジュアルからラグジュアリーまで幅広く対応したクルーズディステーションに～瀬戸内と南西諸島を日本のエーゲ海・カリブ海に～”との言及もあり。

推進会議の体制（「瀬戸内海クルーズ推進会議」規約第11条、12条、13条）

○瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体、民間団体、国の機関から構成される『全体会議』及び近畿・中国・四国・九州の各エリアに係る構成員から構成される『エリア会議』から構成。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内海クルーズ推進会議 代表：清水中国経済連合会会長（中国電力会長）、副代表：佐伯四国経済連合会会長（四国電力会長）

全体会議

総括事務局：中国地方整備局（港湾空港部）
事務局：近畿地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局（各港湾空港部）

【メンバー】

- ・重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・広域的活動する民間団体等
- ・国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・瀬戸内海の全体の課題整理
- ・瀬戸内海全体におけるクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及び全体の取組の進捗管理

【開催日】

- 第1回（平成30年12月13日）
- 第2回（令和元年5月23日）
- 第3回（令和元年11月12日）
- 第4回（令和2年7月14日）書面
- 第5回（令和2年12月21日）Web
- 第6回（令和4年1月28日）Web

情報共有



提案・報告

エリア会議

【メンバー】

- ・各エリアの重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体
- ・各エリアの民間団体等
- ・各エリアの地方自治体
- ・各エリアの国の機関（各地方整備局・運輸局）

【役割・取組内容】

- ・各エリアの課題整理
- ・各エリアのクルーズ振興方策の検討
- ・クルーズ振興に関する取組みの実行及びエリアの取組の進捗管理

近畿エリア会議

事務局：近畿地方整備局
（港湾空港部）

中国エリア会議

事務局：中国地方整備局
（港湾空港部）

四国エリア会議

事務局：四国地方整備局
（港湾空港部）

九州エリア会議

事務局：九州地方整備局
（港湾空港部）



瀬戸内海クルーズ推進会議の取り組み方針



●瀬戸内海クルーズ推進会議アクションプラン（行動計画） ※第3回全体会議（令和元年11月12日）より

①広域連携による戦略的な誘致活動の実施

- クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動の実施。
※瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社）を招聘。
※瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

②魅力的なクルーズプランの提案

- 瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。
※クルーズプラン作成のためのチームづくりを実施。
※誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、瀬戸内海クルーズプランを何パターンか作成。今後の誘致活動、シートレードなどで船社側に提案。

③戦略的な情報発信

- 船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画の作成・更新。
※まずは各自治体で保有している観光PR動画などを再編し、瀬戸内海クルーズ用に作成。
- 瀬戸内海クルーズガイドの作成・更新。
- 瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードクルーズグローバルへの参加。
※瀬戸内海クルーズガイドとPR動画を活用したクルーズ船社へのアピール。

【目指すべき将来像】

広域連携による瀬戸内海クルーズのブランド力の向上
(瀬戸内海クルーズ800隻時代を見据えて)



クルーズ船社等の誘致活動及びFAMツアー ※取り組み方針①②関係



令和元年9月に開催した第1弾を皮切りに、6度の瀬戸内海クルーズ推進会議 誘致活動を企画。

令和4年度は誘致活動 第6弾を開催（詳細後述）。※第3弾は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

開催概要（誘致活動第4弾の例）

【誘致活動】 令和2年10月30日(金) 10:30～17:00 T K Pガーデンシティ P R E M I U M広島駅前 会議室

①パネルディスカッション：「招聘3者のプレゼンテーション」、「現地視察の感想（体験乗船）」、「瀬戸内海エリアの寄港地観光に関する期待、要望」

②誘致活動（商談会）：「招聘3者へ各自治体（18自治体）からのプレゼンテーション」、「クルーズ誘致に向けた打ち合わせ」

【FAMツアー】 令和2年10月29日(木) 08:30～17:50 広島港～呉港～下蒲刈島～大崎下島（御手洗港）～大久野島～生口島（瀬戸田港）～広島港

船社等からの主な意見

【クリスタルクルーズ 日本地区セールスマネージャー】

- ・ 地域特有のストーリーを紹介できる観光要素を紹介してほしい。例えば日本には寺院等が多くあるが、何が違うかわからない。
ストーリー自体が地域のアピールポイントとなる。
- ・ 季節物の観光要素はタイミングがシビアであるため、通年で楽しめる観光要素をアピールしてほしい。

【日本クルーズ客船 営業部企画課担当副長】

- ・ 有名な観光要素であれば、乗船客もすでに知っていることが多いため、ツアーに組み込むことは少ない。
地元でしか体験できない観光要素を求めている。
- ・ 地元にとっては当たり前のものが、観光客にとっては珍しいものに映ることもある。
客観視して、既存のものを見直す必要がある。

【クルーズバケーション 代表取締役社長】

- ・ 乗船客へ観光地の印象を残すためには、地域住民と触れ合う機会が重要である。
そのため、地域住民によるガイドの育成等も必要となると考える。
- ・ 海外のクルーズ船が日本に来るタイミングは、季節の変わり目（春：3～5月、秋：9～11月）が多いため、
このタイミングで楽しめる観光要素があることが重要である。



パネルディスカッション



誘致活動（商談会）

FAMツアーの概要



① 大和ミュージアム



③ 御手洗の町並み



⑤ 平山郁夫美術館



船内



② 白雪楼



④ 大久野島休暇村



使用船舶（シーピカ）



船上



クルーズ船社等によるセミナー ※取り組み方針①関係



クルーズ業界で最も急成長していると言われる探検クルーズをテーマとしたセミナーを開催。探検クルーズとは、小型ラグジュアリークルーズ船（乗客定員100-300名程度）と同船に搭載するゾディアックボートの機動力を活かし、小さな港町、秘境、大自然等を巡るもの。

2023年には瀬戸内海での探検クルーズが検討されていることから瀬戸内海クルーズ推進会議としても誘致に力を入れており、当日は同会議メンバー等、約70名が参加。

開催概要 【瀬戸内海クルーズ推進会議 瀬戸内探検クルーズセミナー】

●日時：令和3年12月9日(木) 15:00～16:45

●場所：中国地方整備局港湾空港部会議室（視聴者はオンライン形式で参加）



●セミナー概要：

1. 世界に広がる探検クルーズ
 2. ポナン探検クルーズの概要と検討中の2023年瀬戸内探検クルーズについて
 3. パネルディスカッション：「探検船を受け入れる自治体の取り組みと2023年瀬戸内探検クルーズ寄港予定地の紹介」
- （○沖縄県座間味村 宮里村長 ○福山市港湾河川課 中川氏 ○尾道市港湾振興課 西門氏 ○呉市港湾漁港課 檜垣氏）

（一般財団法人 みなと総合研究財団 権野氏）

（ポナン 日本・韓国支社長 伊知地氏）



図 2023年瀬戸内エキスペディション（予定）及び上陸イメージ（鞆の浦）





瀬戸内海クルーズガイドブック及びPR動画 ※取り組み方針②③関係



魅力的なクルーズプランの提案と戦略的な情報発信のため、「各港ガイド（岸壁諸元・観光コンテンツ・四季の見どころ・イベント一覧等）」や「瀬戸内海の“おすすめクルーズプラン”の提案」を掲載した 瀬戸内海クルーズガイド を作成。

また、クルーズ寄港予定地を春夏秋冬別で魅力発信する PR動画 を作成。

瀬戸内海クルーズガイド（2020年初版）

◆概要

A5版 全143ページ（英語版、日本語版2パターン）

<https://www.uminet.jp/cruise-ships/>

◆構成

1. 瀬戸内海クルーズプラン ①春の旅 ②夏の旅 ③秋の旅 ④冬の旅

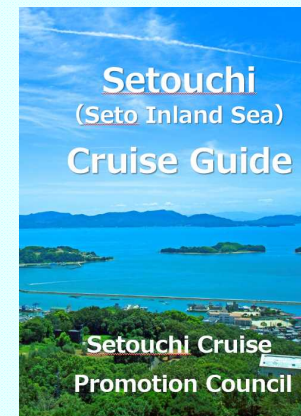
2. 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ

① 世界遺産 ② 国宝建造物 ③ 国宝美術品 ④ 観光名所、

⑤ ローカルグルメ ⑥ 観光体験 ⑦ 問い合わせ先

3. 瀬戸内海に関する情報

① 瀬戸内海の航行規制 ② 瀬戸内海のクルーズ船受入岸壁 ③ 瀬戸内海的主要港湾



瀬戸内海PR動画

◆概要

フル動画 8分44秒（英語版、日本語版2パターン）

<https://youtu.be/iWOS8tUzjvU>

◆構成

瀬戸内海の紹介、季節毎のおすすめ観光地 等



活用方法

◆主な活用事例

- クルーズ船社等誘致活動、クルーズセミナー等に、クルーズ船社（邦船及び外国船）や旅行会社、ランドオペレーターを招聘した際、クルーズガイドブックや動画を活用し瀬戸内海をPR

- 米国フロリダ州マイアミにおいて開催された「Seatrade Cruise Global 2019」に瀬戸内海クルーズ推進会議（総括事務局：中国地方整備局）が参加。
- 日本政府観光局が設置するJAPANブースにおいて瀬戸内海クルーズの魅力を発信するとともに、同推進会議の関連港や本省港湾局産業港湾課クルーズ振興室と連携し、瀬戸内海への寄港の少ない船社を中心に、複数船社と面談を実施。
- ※ Seatrade Cruise Global：毎年春に米国フロリダ州で開催される世界最大のクルーズ見本市。各国クルーズ船社のキーパーソンや各国関係者（政府観光局、港湾管理者、船社等）が集結し、各参加者によるPR、商談会などのセールスが展開される。

Seatrade Cruise Global 2019において、各港と連携し、瀬戸内海クルーズを発信

- 【開催日程】平成31年4月8日（月）～4月11日（木）
- 【開催場所】米国フロリダ州フォートローダーデール Miami Convention Center
- 【主な参加者】各国政府観光局・港湾局、造船・船用メーカー、クルーズ・オペレーター、ツアーオペレーター 等

我が国からの参加団体（★：瀬戸内海クルーズ推進会議構成員）

青森県、秋田県、石川県・金沢市・（一社）金沢港振興協会、岩手県、**大阪市**、鹿児島県、京都舞鶴港、熊本県、高知県、**瀬戸内海クルーズ推進会議**、東京港、新潟県、**広島県**、福井県、伏木富山港、**山口県**、この他、国土交通本省港湾局、旅行会社等が参加

面談を実施した船社(6社)

- The Ritz Carlton Yacht Collection社
- Norwegian Cruise Line Holdings社
- ResidenSea Cruise社
- Holland America Line社
- TUI Cruises社
- MSC Cruises社

【面談した船社から得られた瀬戸内海クルーズの期待】

- 瀬戸内海への寄港実績が少ない船社もしくは寄港実績の無い船社であっても、瀬戸内海のポテンシャル・魅力は伝わっている。
- 個別の港への誘致も重要であるが、瀬戸内海クルーズのようにエリア単位として売り込むことも重要ではないか。
- 瀬戸内海クルーズとして各港が連携して誘致に取り組むことで瀬戸内海としてのブランド力も向上する。



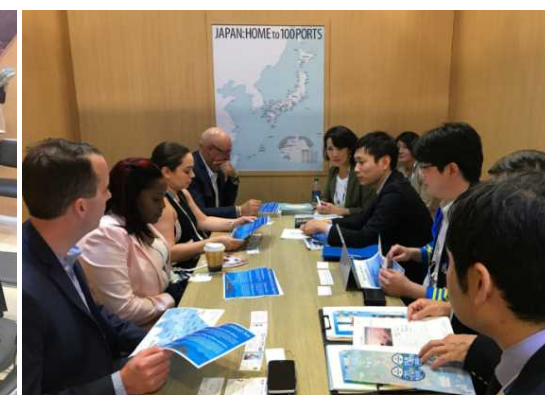
JAPANブースの様子



鏡割の様子



船社と瀬戸内海クルーズ推進会議事務局の面談の様子





2. 今年度の活動報告

○瀬戸内海クルーズ推進会議の中央要望

瀬戸内海クルーズに関する緊急要望

令和4年6月2日

瀬戸内海クルーズ推進会議有志一同

<要望概要>

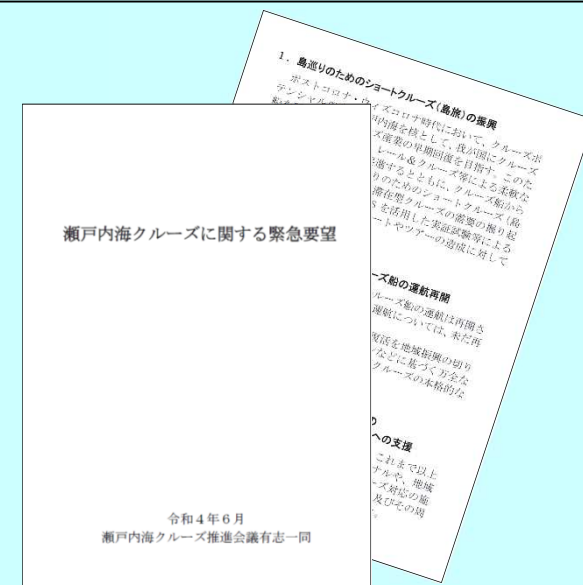
1. 島巡りのためのショートクルーズ(島旅)の振興
2. 瀬戸内海における外国籍クルーズ船の運航再開
3. 大型クルーズ船やショートクルーズ対応の施設整備への支援
4. クルーズや寄港地の安全性の積極的なPR



右から田邊 広島県副知事、浅輪 前国交省港湾局長、
荻田 瀬戸内海クルーズ推進会議 前代表



右から田邊 広島県副知事、金子 前観光庁国際観光部長、
荻田 瀬戸内海クルーズ推進会議 前代表



瀬戸内海クルーズに関する緊急要望(令和4年6月)



クルーズ船社を招聘した誘致活動(第6弾) ※取り組み方針①②関係



令和4年11月18日(金)、邦船社・外国船社・クルーズ船チャーターを行っている旅行会社・ランドオペレーターの4社を招聘し、瀬戸内海クルーズ推進会議メンバーによる誘致活動(商談会)を開催。今回は新たな取り組みとして、招聘社に瀬戸内海を周遊するクルーズをイメージしてもらうべく、瀬戸内エリアを4つのブロック分けにした上で、各ブロックより誘致活動を行った。

開催概要

誘致活動第6弾(商談会) 令和4年11月18日(金) 10:30~17:40

①招聘社によるプレゼンテーション(午前)

②招聘者及び推進会議メンバーによる商談会(午後)

招聘社: 商船三井客船、シルバーシークルーズ、阪急交通社、
東武トップツアーズ

推進会議メンバー: ブロック①〔和歌山県・徳島県・大阪府〕
ブロック②〔兵庫県・岡山県・香川県〕
ブロック③〔広島県・愛媛県〕
ブロック④〔山口県・福岡県・大分県〕

招聘社の主な発言内容

- ✓ コロナ前に比べて、船上から景色を楽しんでもらう機会が増えた今、寄港地のみでなく、夜間含め景色が楽しめる瀬戸内海は魅力的。寄港地においては出発前にお土産が買われることが多く、岸壁での物産展は有効。(商船三井客船)
- ✓ 11月15日に国際クルーズ再開に関するガイドラインが発出されたが、今後、船社はこれに基づくプロトコルを作成し、認証を受ける。その後、寄港地との合意形成を図って、再開という流れ。(シルバーシークルーズ)
- ✓ 最近、韓国もクルーズ船誘致に注力しており、今後は日韓の誘致競争になるかもしれない。瀬戸内海は、通常のクルーズだけでなく、エクスペディションクルーズにも絶好のロケーション。(同)
- ✓ 日本発着の大型船チャーター便は割安であり、予約状況も好調である。チャータークルーズは、経費等と条件が合えば、多様な地域に寄港できるチャンスがある。(阪急交通社)
- ✓ 地域それぞれの実状を認識して商品設計する必要がある、東京からオペレーションだけでは限界がある。地元のパートナーシップが非常に大切であり、皆さんと新しい商品の立案・実施することで、地域の観光魅力度も高めたい。(東武トップツアーズ)



招聘社によるプレゼンテーション



各ブロックによる誘致商談会



(公社)2025年日本国際博覧会協会との連携 ※取り組み方針②関係



2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催に関連したクルーズ企画を検討すべく、公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会（万博協会）と連携。当会議後に開催する「クルーズセミナー ～地域連携によるクルーズ振興～」において、万博協会のプレゼンを予定。

**2025年の万博、
日本、大阪・関西で開催！**





瀬戸内海クルーズガイドブック及びHP更新 ※取り組み方針②③関係



瀬戸内海クルーズガイド を更新し、近年の新しいニーズや最新の情報を追加掲載。また、各種クルーズ寄港予定地等の情報を発信するため、瀬戸内クルーズホームページ も更新。

瀬戸内海クルーズガイド（2022年更新）

◆更新内容

1. 瀬戸内海クルーズプラン
→春・夏・秋・冬のクルーズプランに加えて、探検クルーズプランを追加掲載
2. 瀬戸内海沿岸の観光コンテンツ
→コンテンツのアップデート
3. 瀬戸内海に関する情報
→瀬戸内海の航行規制、主な港湾、クルーズ船受入岸壁に加えて、主な沖泊地、船内廃棄物受入情報を追加掲載

（巻末）新型コロナウイルス関連情報を追加掲載

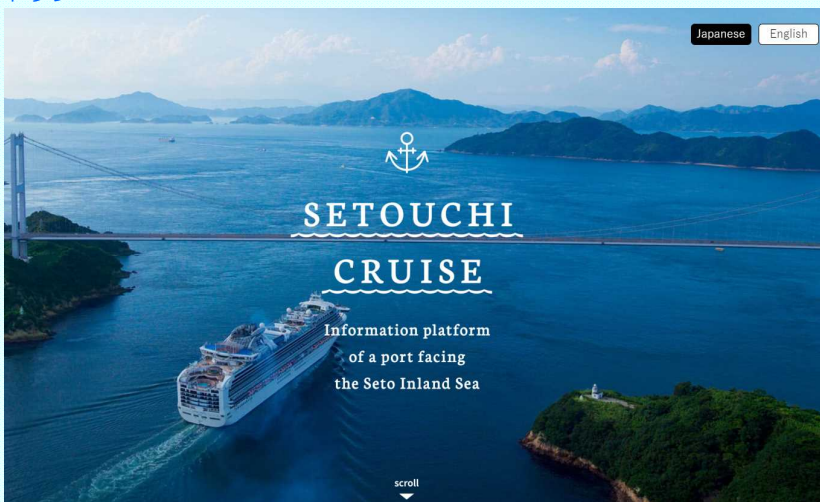


瀬戸内クルーズHP更新

◆HP仕様

英語版、日本語版の2パターン
PR動画視聴・各港の地図上検索・都道府県別検索が可能

トップ



PR動画



各港地図上検索



港の概要





3. 今後の進め方（案）について



瀬戸内海クルーズ推進会議の今後の方針・進め方



広域連携による戦略的な誘致活動の実施【継続・一部提案】

- クルーズ船社への誘致活動に加え、クルーズ船社、ランドオペレーター等の招聘活動（現地視察）の実施。
 - ・瀬戸内海を更に活かしたクルーズプラン構築や瀬戸内海沿岸の観光コンテンツをさらに把握したいと考えている社を招聘。
 - ・瀬戸内海クルーズ推進会議の構成員によるプレゼンを実施（併せて希望する社に対して現地視察を実施）。

◆クルーズ船社のニーズにマッチし、より効果的な誘致活動の実施。

※船社等の意見を踏まえ、寄港地が個別ではなく、連携した誘致活動を継続する。

※瀬戸内エリア（広島）に船社等を招聘した誘致活動及び現地視察を行う従来の手法に加え、船社等のオフィスが集中する東京において誘致活動を行う手法についても検討し、より効果的な誘致活動を実施する。

魅力的なクルーズプランの提案【継続】

- 瀬戸内海クルーズ推進会議として連携した“おすすめクルーズプラン”の提案。

・誘致活動などで得られたクルーズ船社の要望などを踏まえ、複数の瀬戸内海クルーズプランを作成・更新。誘致活動等で船社側に提案。

◆瀬戸内海における大規模交流イベント開催に向けたクルーズ企画の検討と検証。

※クルーズ船社などの意向を踏まえ、大阪万博、瀬戸内国際芸術祭の開催に関連したクルーズ企画についての検討・検証。

◆寄港地からの周遊エリア拡大方策の検討とクルーズプランの拡充。

※寄港地周辺や観光地に集中しがちなクルーズ客を、MaaSの活用等により広範囲に誘客する方策を継続検討し、クルーズプランを拡充。

戦略的な情報発信【継続・一部提案】

- 船社向けの瀬戸内海クルーズPR動画、瀬戸内海クルーズガイド、瀬戸内クルーズHPの有効活用。

- 瀬戸内海クルーズ推進会議によるシートレードクルーズグローバルへの参画。

・JNTOのクルーズ誘致プロモーション事業と連携、瀬戸内海クルーズガイド等を活用したプロモーション。

◆「瀬戸内海クルーズガイド」及び「瀬戸内クルーズHP」アップデート。

※アップデート（各港施設・観光情報等）に向けて、会員自治体からの最新情報、意見等を集約中。

◆シートレードクルーズグローバル2023 港湾情報パンフレットへの掲載。

※瀬戸内海クルーズのPR、瀬戸内海クルーズガイド及びPR動画へリンク誘導（原稿校正中）。